



みやぎ

— 72号 —

発行元 独立行政法人国立病院機構宮城病院
 発行責任者 広報委員長 安藤 肇史
 〒989-2202
 宮城県亶理郡山元町高瀬字合戦原100番地
 TEL 0223-37-1131 FAX 0223-37-3316
 ホームページ <http://www.mnh.go.jp/>

令和3年度山元町及び亶理町並びに宮城病院相互協力協定に基づく意見交換会開催！ 事務部長 若佐 孝男

令和3年度山元町及び亶理町並びに宮城病院
 相互協力協定に基づく意見交換会



山田周伸亶理町長 永野功病院長 齋藤俊夫山元町長

状況と山元町ワクチン接種支援状況、③山元町地域包括支援センター業務受託状況、④医師不足に伴う宮城県へき地特例許可状況等の説明を行い、特に新型コロナウイルス、医師確保、病院経営状況から病院運営計画の見直しとともに地域医療構想への対応が求められていることから、令和4年度開設を目標としていた介護医療院の開設時期等の見直しを説明し、理解を求めました。

特に、福島県沖地震の被害状況は詳細な資料に基づいて行ったことから、被害の重大さが充分伝わったのではないかと思います。

当院は、病院運営の柱として、訪問看護・リハビリ、地域包括ケア病棟、地域包括支援センター事業受託、救急医療等地域包括システムを中心とした医療等の提供を推し進めている。亶理郡唯一の病院として、両町との密接な連携は地域包括ケアシステムの実践には欠かせないものとなっています。

10月上旬には、相互協力協定事業の一つとされる「宮城病院クリーンキャンペーン」も実施され、地域医療構想への的確な対応のためにも本事業の継続とともに、両町との密接な連携を更に深めていきたいと思っております。

去る9月30日(木)13時30分から当院ダイケア棟において、令和3年度山元町及び亶理町並びに宮城病院との相互協力協定に基づく意見交換会が実施されました。

はじめに、齋藤俊夫山元町長から、「回を重ねて6回目となる意見交換会は、関係者の皆様方が一堂に会して意見交換会ができることは大変うれしく、また、心強い限りです。」と開会のご挨拶をいただきました。

意見交換会では、山元町から令和2年度連携事業及び令和3年度事業計画の説明の後、当院から現状報告を行いました。

1年に1回の意見交換の場であることから、前回開催時からのトピックス等の説明を行った。①令和3年2月に発生した福島県沖地震による被害状況と復旧状況、②新型コロナウイルス対策として、亶理郡地域外来・検査センター運営



基本理念

『良い医療を安全に、心を込めて』

行動理念

1. 私たちは生命と人権を尊重し、患者さんを中心とした質の高いチーム医療を推進します。
2. 私たちは難病、重症心身障害など国が担うべき医療と臨床研究を推進します。
3. 私たちは地域の医療・行政機関と連携し、地域の方々の疾病予防や健康の向上に貢献します。
4. 私たちは病院の機能を十分発揮できるよう、健全な経営と経営基盤の強化に努めます。
5. 私たちは常に患者さん方から学び、向上する組織体を目指します。
6. 私たちは常に明るく働きがいのある職場づくりに努めます。



宮城病院公式マスコットキャラクター

「みやべりー」

宮城病院
 インスタグラム



※読み取ってください

山元町クリーンキャンペーン実施について



今年も第7回目となる山元町・亶理町との相互協力協定事業に基づく「宮城病院クリーンキャンペーン」が令和3年10月9日（土）に開催されました。昨年まではボランティアの方々が参加しやすいようにと毎年日曜日に開催していましたが、今年は土曜日開催となりました。

今年も山元町役場より亶理町を含めて広報活動を行っていただいたお陰で町内の企業、両町役場の皆さま方、病院職員合わせて昨年以上となる約280名もの皆さま方にご参加いただきました。当日午前9時より小雨が降る中、齋藤山元町長よりご挨拶

をいただき、続いて永野病院長から、日頃の感謝の言葉と新型コロナウイルスに関する検査センターやワクチン接種について、今後も亶理郡唯一の病院として地域の皆さま方に貢献することなどを挨拶し、午前中の作業を開始しました。開始早々雨が強くなってきましたが、今年も当院の広大な敷地を4グループに分けて、効率よく草刈り、高所作業車による木々の伐採などを中心に行っていただきました。途中より雨脚が酷くなり、最後は大雨の中、予定時間まで作業することはできませんでしたが、広い敷地内や南病棟の奥側と宿舍エリアの木々が生い茂っている箇所を丁寧に作業していただき、大変感謝しております。

今年は、特に大雨でずぶ濡れの中参加していただいた皆様のお陰でとても綺麗にさせていただきましたこと、この場をお借りいたしまして深く感謝申し上げます。

（企画課長 大坂 雄二）

第75回国立病院総合医学会開催！！

第75回国立病院総合医学会は、仙台医療センターを会長施設に、当院と米沢病院が副会長施設として開催されました。今年の総合医学会は当初、ハイブリッド形式での開催を模索しましたが、新型コロナウイルスの猛威はとどまることを知らず、昨年に引き続きWEB開催になりました。第75回医学会のテーマは「社会の大転換期における国立医療 救う、支える、育む、拓く～連帯と挑戦～」と少々長いですが、会長、副会長の意見を全部盛り込んでいただきました。今回の学会では宮城病院の各職種から、シンポジウム3題、口演7題、ポスター10題の研究発表がありました。その中には、最近の当院のハイライトである収束超音波治療FUSと宮城病院地域包括支援センター、そして訪問看護ステーションについての発表もあり、全国の

NHOの皆さんに宮城病院の活動の一端を示すことができましたと思います。私は10月23日の開会式と当日のライブ配信を仙台医療センターで視聴し、午後には、東北大学災害国際研究所の今村文彦先生による特別講演2「東日本大震災の発生と今後の防災～災害科学の進化と実践的防災の発展を目指して」の座長を務めました。災害科学は新しい分野ですが、この講演では東日本大震災の経験を踏まえて、大地震や津波など避けることができない天災に対して、どのように抵抗力（レジリエンス）を高め減災につなげるのかについて示唆に富むメッセージをいただきました。特別講演1では東北大学の押谷仁先生が「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の最新知見」について講演、2003-2004年流行したSARSとの疫学的な違いから、COVID-19がSARSのように消失することはないだろうし、ワクチンのみで制御することも困難であろうと厳しい予測を示され、無然たる思いでした。さて、今回の総合医学会は地元開催ということで我々にとって身近な学会となり、宮城病院の職員の日ごろの成果を発表するとともに、他施設の発表を視聴して知見を深めるなど絶好の自己研鑽の機会になったと思います。開催準備と運営に当たられた関係各位に感謝申し上げます。

（宮城病院長 永野 功）

社会の大転換期における国立医療
救う、支える、育む、拓く～連帯と挑戦～

第75回
国立病院総合医学会

会長 上之原 広司
副会長 飛田 宗重
永野 功

2021 10/23 (土) WEB開催
オンデマンド配信期間: 2021年10月23日(土)～11月20日(土)

国立病院機構 仙台医療センター
日本コンベンションサービス株式会社 東北支社

https://site2.convention.co.jp/75nms/

連携室から

こんにちは！地域医療連携室医療相談員の川村と申します。今回の連携室コーナーでは、「高額療養費制度」についてご紹介したいと思います。

「高額療養費制度」とは、ひと月の間に病院や薬局で支払った医療費が、ある一定の上限額を超えた場合、超えた分の金額が戻ってくる制度です。上限額は、年齢や所得の状況によって異なります。この制度は、外来と入院どちらでも利用することが可能ですが、入院時の食費や個室料など、医療保険適用外のものは対象ではないため注意が必要です。また、高額になった医療費を一度は支払う必要があり、一時的でも負担が増えてしまう面もあります。特に入院した際は医療費が高額となるため、「限度額適用認定証」を医療機関の窓口で提示いただくことをお勧めします。「限度額適用認定証」を提示すると、医療費の支払いを初めから上限額までに抑えることができるため、一時的に高額な医療費を支払わずに済みます。この認定証は、国民健康保険加入の方はお住まいの市区町村窓口、社会保険加入の方は各保険者に申請して取得することができます。

制度についての詳細や申請方法など、ご不明な点がございましたらお気軽に地域医療連携室までご相談ください。

(医療社会事業専門員 川村 健太)



部門紹介 ～薬剤部～

薬剤部では、令和3年度は1名欠員の状況でスタートしましたが、10月より新たに1名異動してきたことで、やっと薬剤師6名+薬剤助手2名の計8名のフルメンバーとなり、日々の業務に取り組んでいます。

今年度異動してきた新任スタッフを紹介します(①氏名 ②職名 ③前任地 ④特技 ⑤山元町でやりたいこと)。以上、どうぞよろしくお願ひします。

(副薬剤部長 菅原 秀悦)

- ① 菅原 秀悦
- ② 副薬剤部長
- ③ 仙台医療センター
- ④ サッカー
- ⑤ 無違反での通勤(ゴールド免許を守ります)

- ① 木村 舞貴
- ② 薬剤師
- ③ 函館病院
- ④ フィギュアスケート(例えば、トリプルサルコウ→ダブルトゥーループの連続技)
- ⑤ はらこ飯の食べ比べ



令和3年2月福島県沖地震 復旧状況について

令和3年2月に発生した福島県沖地震の復旧工事の進捗報告です。

夏期間は、建物の耐震診断や設計作業のため、予定通りに復旧工事が進みませんでした。が今月末より本格的に工事関係が始まる予定です。

地震の影響により、外壁等損傷が激しかった外来管理棟増築部分の救急外来外壁補修や救急車停止スペースの解体工事、各建物等の修繕工事を予定しております。外来診療に影響がないよう最大限の配慮を行いながらの工事となり、工事期間が通常より長くなってしまいますが、当院を利用いただいている患者様、ご家族の皆様へ安全で安心していただけるよう、早急な復旧に向けて対応をしていきたいと思っております。今後も「広報みやぎ」を通じて、進捗状況について報告いたします。

(企画課長 大坂 雄二)

防災（火災）訓練の実施

令和3年9月3日（金）に今年度1回目の防災（火災）訓練を実施しました。

今回の訓練は、夜間想定で中央病棟3階を出火元とし、火元発見者（病棟看護師）による消火器を使用した初期消火訓練から始まり、病棟内散水栓を使用した模擬消火、病棟スタッフ及び当直師長による模擬患者（独歩・護送・担送）の避難誘導訓練を行いました。

また、途中からは出火元病棟以外の病棟スタッフについても救護班（病棟応援）として避難誘導に加わり、担送、護送患者については、エアストレッチャーを使用した搬送を実施しました。

訓練参加者からは、火元の3階の病棟から1階の避難場所まで患者をエアストレッチャーを使用して避難させるのは、かなりの重労働であり、人数を要することが良く分かった等の感想が聞かれ、訓練を通して日頃から防災に対する意識を高めることが重要であることを再認識しました。

(庶務班長 小川 哲)



消火器を取り出す看護師



模擬患者を担送する看護師達



令和5年度採用看護職員募集案内 パンフレット&ポスターの撮影

8月下旬の晴天に恵まれたある日。北海道東北グループ令和5年度採用看護職員募集案内パンフレット&ポスターの撮影が行われました。前月に行われたロケハンも感心しておりましたが、撮影当日はさらに感心することばかりでした。カメラマンはストーリーを語り看護師が意図した動作や表情ができるように促し、その瞬間を見逃さず瞬時に撮影するスキル！モデル看護師たちの対応能力もさすがでした。南病棟から見える庭が素敵だと急遽撮影して下さいました。出来上がりが楽しみです！

(教育担当師長 内海 麻耶)



写真は今回の撮影とは別に、看護部で撮影したパンフレット内に掲載される写真です。こちらプロ並み！？でしょう？

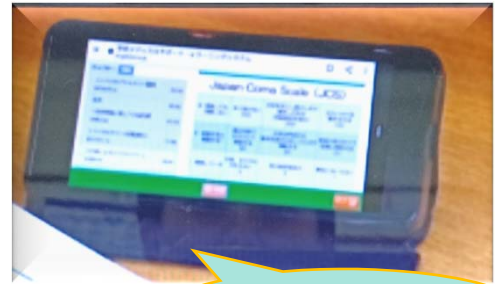
新人看護師研修

8名の新人看護師全員が夜勤を行えるほどに成長しました。夜勤がゴールではありませんが、夜勤ができるようになることは新人看護師にとって大きな成長です。夜勤を行うためには、体調を整え続けられるように衣食住を保つこと、タイムマネジメントができるようになること、看護技術もある程度のレベルでやり立ちが必須です。昨年度から取り入れた「学研ナーシングサポート eラーニング」はそんな新人たちの大きな味方となってきています。ストレスも心配な時期にはストレスマネジメント研修も行い心身のセルフコントロールの仕方も学びました。まだまだ成長著しい新人看護師8名のご支援をよろしくお願いたします。

(教育担当師長 内海 麻耶)



急変時対応研修の様子



eラーニング風景

新型コロナワクチン個別接種

今年6月18日から開始した山元町住民の方を対象とする新型コロナウイルスのワクチン接種ですが、1日100人以上の規模で行う院内での個別接種は10月8日をもって一旦終了となりました。

院内での接種件数だけでも2700回という件数に達しますが、その間、1回1回の接種に間違いがないように、職員一人ひとりが細心の注意を払い、かつ、それぞれの専門性をもって、この事業に取り組んできました。

従事する職員のみならず、通常の診療業務に支障が出ないようこれをサポートする職員、接種の日ごとに会場設営を繰り返す職員など、多くの職員がこの事業に携わっています。

3回目の追加接種も報じられる中、宮城病院全体で取り組むこの事業により新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に少しでも貢献できればと願っています。

(管理課長 増田 和美)

個別接種件数 (院内での接種)

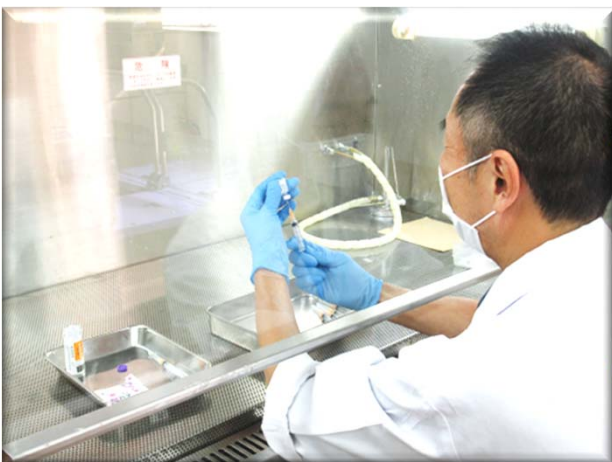
(R3.6.18~R3.10.8)

医療従事者 (消防など)	182件
高齢者	864件
上記の方以外	1,727件

集団接種 (山元町ひだまりホールへの派遣)

(R3.5.26~R3.10.3)

医師	34回	延べ	47人
看護師	61回	延べ	165人
薬剤師	41回	延べ	75人
事務職	39回	延べ	76人



1V (バイアル) ずつトレイに分けられたワクチン。ロットが混ざらないよう注射器への充填は1Vずつ行われる。クリーンベンチという衛生状態を保つ装置の中で異物が混入しないよう準備される。

個別接種で使うファイルは1枚1枚毎回消毒していました。



診療案内

令和3年10月1日現在

診療科	曜日	月	火	水	木	金
脳神経内科 (新患は予約制)	新患	久永 欣哉	渡辺 靖章	宮澤 康一	松本 有史	平良 摩紀子 (第1・3)
	再来	永野 功	久永 欣哉	永野 功	久永 欣哉	久永 欣哉
		渡辺 靖章		松本 有史		金子 仁彦 (第2・4)
内科		清野 仁	清野 仁	志澤 聡一郎	清野 仁	清野 仁
		志澤 聡一郎	志澤 聡一郎	齊藤 秀行	志澤 聡一郎	志澤 聡一郎
		齊藤 秀行	中川 孝			東北大学病院から
循環器内科	午前			加藤 浩	東北大学病院から	
	午後	東北大学病院から (検査日)				
呼吸器内科			佐野 寛仁			宍倉 裕
消化器内科	午後			県立がんセンターから (13:30~15:30) 第2・4週(木を基準)	県立がんセンターから (13:30~15:30) 第2・4週(木を基準)	
外科 (総合診療外科)	午前	八巻 孝之	八巻 孝之		八巻 孝之	
	午後		(手術日)		(手術日)	
アレルギー科	午前	堀川 雅浩		堀川 雅浩		堀川 雅浩
小児科	午前	堀川 雅浩		堀川 雅浩		堀川 雅浩
		東北大学病院から		東北大学病院から		東北大学病院から
整形外科	午後					県立がんセンターから (13:30~15:30)
形成外科				舘 一史		澤村 武 渡部 紀久子 (隔週交替 13:30~15:30)
皮膚科					東北大学病院から	
脳神経外科		仁村 太郎	安藤 肇史	仁村 太郎	(手術日)	安藤 肇史
			永松 謙一 (第2・4週)			
歯科		稲木 涼子	稲木 涼子	稲木 涼子	稲木 涼子	稲木 涼子
		中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子
専門外来	パーキンソン病外来	脳神経内科外来にて随時受け付け				
	頭痛外来	脳神経内科外来にて随時受け付け				
	もの忘れ外来	脳神経内科外来にて随時受け付け				
	ALS外来	脳神経内科外来にて随時受け付け				
	ふるえ外来	脳神経外科 (予約制)		脳神経外科 (予約制)		脳神経外科 (予約制)
	糖尿病外来				東北大学病院から	
	禁煙外来	午後				山本 蒔子 (第2・4週)
	女性外来	午後				山本 蒔子 (第2・4週)
	腎臓病外来	午後			若林病院から (第1・3週)	
	入れ歯外来			重光 竜二	伊藤 秀美	

受診される方へ

①受付時間は8:30~11:00です。

②土曜日・日曜日・祝日・休日及びび年末年始

(12月29日~1月3日)は休診です。

ただし、**急患の方は随時受付いたします。**

お問い合わせ先 0223-37-1131

③初めて当院を受診される方は、他の医療機関からの紹介状をお持ちください。紹介状がなくとも受診はできますが、その場合初診時に**2750円を負担**していただくこととなりますので予めご了承願います。

交通のご案内

●自動車でおいでの方●

■仙台方面から■

仙台市中心部から南へ約40km、国道4号線と

6号線分岐点から南へ20km、

国道6号線314.5kmポイント(標識)が目印です。

高速道路ご利用の場合、常磐自動車道山元ICで

降り、国道6号線を相馬方面へ南下。山元ICから約5km。

■相馬方面から■

国道6号線を仙台方面に向かい、宮城・福島県境から約10分です。

●交通機関をご利用の方●

■仙台方面から

JR常磐線山下駅下車。タクシーまたは町民巡回バス利用。

(詳しくはお問い合わせください)

